

公益財団法人ダイオーズ記念財団 助成事業

秋田県北秋田市、東京都三鷹市支援による

コロナ禍で急激に普及したテレワークの労働環境改善

～利用が拡大しているテレワークにおける労働環境に係る調査、研究～

目次

1. はじめに	1
2. 当プロジェクトの目的	2
3. 当プロジェクトの背景	2
4. チームメンバー一覧	3
5. お世話になった方々	3
6. 調査の概要	5
6-1 調査訪問先と日程:	5
7. 実施内容 調査訪問別報告	6
7-1 Kick Off 会議	6
7-2 参加者(敬称略):	6
7-3 会議内容	9
7-4 まとめ	17
8. 北秋田市訪問	18
8-1 調査訪問先別報告:北秋田市役所 本庁舎	18
8-2 調査団員(敬称略):	18
8-3 組織・概要(設立・機能)	18
8-4 写真(オフィス、意見交換背景等)	19
8-5 説明内容	19
8-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	20
8-7 まとめ	21
9. 調査訪問先別報告: 鷹巣スポーツ	22
9-1 調査団員(敬称略):	22
9-2 組織・概要(設立・機能)	22
9-3 写真(オフィス、意見交換背景等)	23
9-4 説明内容	23
9-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	24
9-6 まとめ	24

10. 調査訪問先別報告:北秋田市役所阿仁庁舎 本庁舎	25
10-1 調査団員(敬称略):	25
10-2 組織・概要(設立・機能)	25
10-3 写真(オフィス、意見交換背景等)	26
10-4 説明内容	26
10-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	27
10-6 まとめ	28
11. 調査訪問先別報告:ワーケーション施設(阿仁合駅)	30
11-1 調査団員(敬称略):	30
11-2 組織・概要(設立・機能)	30
11-3 写真(オフィス、意見交換背景等)	31
11-4 説明内容	31
11-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	32
11-6 まとめ	32
12. 調査訪問先別報告:Forest Energy 秋田支店	33
12-1 調査団員(敬称略):	33
12-2 組織・概要(設立・機能)	33
12-3 写真(オフィス、意見交換背景等)	35
12-4 説明内容	35
12-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	35
12-6 まとめ	36
13. 調査訪問先別報告:秋田信用組合 鷹巣支店	37
13-1 調査団員(敬称略):	37
13-2 組織・概要(設立・機能)	37
13-3 写真(オフィス、意見交換背景等)	38
13-4 説明内容	38
13-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	39
13-6 まとめ	39

14. ビッグエコー訪問	40
14-1 調査訪問先別報告:	40
14-2 調査団員(敬称略):	40
14-3 組織・概要(設立・機能)	41
14-4 写真(オフィス、意見交換背景等)	42
14-5 説明内容	42
14-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	43
14-7 まとめ	44
15. 三鷹市役所訪問	45
15-1 調査訪問先別報告:	45
15-2 調査団員(敬称略):	45
15-3 組織・概要(設立・機能)	45
15-4 写真(オフィス、意見交換背景等)	46
15-5 説明内容	46
15-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	47
15-7 まとめ	49
16. H'T 訪問	50
16-1 調査訪問先別報告:H'T 吉祥寺 シェアオフィス	50
16-2 調査団員(敬称略):	50
16-3 組織・概要(設立・機能)	51
16-4 写真(オフィス、意見交換背景等)	51
16-5 説明内容	52
16-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)	52
16-7 まとめ	53
17. 全体まとめ、考察(提案)	54
17-1 テレワークの目的	54
17-2 人との繋がり	55
17-3 健康面	55
17-4 時間	57
17-5 セキュリティ	58

1. はじめに

2021年3月から世界中で流行し多くの人々を苦しめ続けてきた新型コロナ。その厳しい環境の中の施策として日本でもロックダウンや外出禁止措置が日本中で一気に広がった。

一方で我が国日本は第二次世界大戦後の急激な成長の為に国民が一丸となって努力を続けてきた。この一丸となってという言い回しに代表されるように日本の国民、とりわけビジネスを推進してきた人々は、常に直接顔を合わせ、議論し、世界の果てまでもそのチームワークを崩さずに努力をしてきた。つまり日本人の強さは、常に会話し、助け合い、会社を一つのチームと認識し、名実ともに一丸となるところにある。

この日本人の強さを保つための活動を根本から打ち砕いたのが新型コロナ禍におけるロックダウンや外出禁止措置だった。

そこで突然広まったのが「テレワーク」である。「テレ」すなわち遠隔でのワークは、そのままZOOMなどのPCとネットワークを使ったコミュニケーション手法そのものと同義語と理解された。日本人の得意な密なコミュニケーションとチームでの強い組織活動が突然パソコンを使ったテレビ電話になったのである。

欧米、特にアメリカ国内におけるテレワークの歴史は長い。IBMでは1985年ごろには既にコンピューターのディスプレイ上でのチャットや電子メールが使われていた。多くの人数が一つの電話で会話する電話会議の仕組みは、1995年ぐらいには既に社内で普及していた。これはアメリカの地形が大きな原因と考えられる。アメリカ大陸は広い平地にたくさんの町が点在し、それらを幹線道路や鉄道が繋いでいる。日本の様に住宅地やオフィス街が広くつながって広がっている形状ではない。そこで自分の町から出る事無く、遠隔地で仕事をするテレワークが定着した歴史がある。それも30年という期間なのである。

さてそこで日本ではこの仕組みがたった数カ月で突然展開されたのである。私がIBMに努めていた時には、この30年のテレワークの歴史で学んだ様々な経験と知恵がその仕組みを支えていた。自宅でも明け方まで続く過度な残業、時間の観念や気遣い無く始まる電話会議、一人だけが延々と話す独占演説会議、家族が声を潜めなければならないお父さんの電話会議、家に引く電話回線の費用負担、自宅に機密書類を持ち帰らずともパソコンから見えてしまう機密情報管理、などなど様々な人と組織を守る知恵や仕組みが構築された。

さて、今の日本。経験の浅い日本社会に突然降ってきたテレワーク。これから就職する若い学生たちが、この付け焼刃で作られた日本社会のテレワークの環境にそのまま飛び込む事に本当にリスクは無いのか。テレワーク初心者の日本社会が手探りで導入した仕組みには本当に改善点はないのか。この大きな問題にフレッシュな感覚で一石を投じるべく、このプロジェクトを立ち上げた。

2. 当プロジェクトの目的

当プロジェクトの目的は明らかにテレワークやワーケーションの現状を正しく見る事、そしてその中から既存の概念にとらわれないそれらの形の理想を書き出してみる事である。既存のテレワーク設計やその仕組みは前述の様に少ない経験の中で ZOOM などのツールを利用することから発想して設計されている。経験の長い海外の社会の様に、これまでの利点もリスクも失敗例もほとんど共有すること無くツールありきでの設計がなされている。しかしテレワークやワーケーションは人間が実際に使う環境そのものや生活スタイルそのものであるがために、ツールありきでの設計では長期間の存続や十分な利得が得られない可能性が非常に高い。

現役の大学生ながら就職を目の前にした 3 年生と 4 年生をプロジェクトの中心においた。彼らは新型コロナの影響で少なくとも 2 年間のテレワーク授業を強いられていた。通常のビジネスマンがテレワークといえども 1 日に 2-3 時間の作業であるのに比べ彼らは週 5-6 日毎日 5-6 時間連続したテレワークともいえる遠隔授業を 2 年間続けた日本で最も価値のあるテレワーク実経験者なのである。

今回の目的を考えるにあたって実態をしっかりと把握し、かつ前提知識や慣例にとらわれていない人々がそのあるべき姿を論ずることの大切さを最も重要要件とした。

3. 当プロジェクトの背景

テレワーク、ワーケーションの歴史とそこに潜む危険性とこれからの世界を担う若者が直面するリスクの可能性については前述のとおりであるが、具体的な地域をどのように選択して何を得るかを定める事が重要であると感じていた。今の就業環境の前提として、自宅、会社という大まかな種類の他に、その自宅や会社が、場合によっては学校がどのような条件の都市やまちに存在しているかをマトリクスで考えなければならぬとの考えに至った。単純に都会のテレワークも首都圏以外の地域のテレワークも同じ前提で考える事の危険さに気づき、それを当プロジェクトの背景として考えた。

具体的には秋田県でも秋田市から約 2 時間の移動を要する北秋田市と、首都圏で民力が高く、都心に就業している人口の多い三鷹市を選択した。

まず秋田市と北秋田市の関係を考えてみた。秋田市と北秋田市の関係は首都圏の大手町地区と多摩や千葉西武地区との関係に近く、秋田市を選択して調査することでは大手町同士を比べるような結果が出てくる事を懸念した。しかし首都圏の多摩地区や千葉県西部地区が大手町に集中して通勤するのに対し、北秋田市は農業、林業などの地場産業も盛んで首都圏の外郭都市とは明らかに違った性格を有している。今回プロジェクトの背景として、調査する地場、場所の特徴を背景として慎重にとらえる事とした。

4. チームメンバー一覧

担当教授 岡村 久和

<u>学年</u>	<u>名前</u>
3年	濱田 大雅(リーダー)
3年	佐藤 駿
3年	三橋 加奈子
3年	吉村 瞳子
3年	大塚 亮太郎
3年	増田 圭祐
2年	三成 海太
2年	菊池 拓実
津田塾大 4年	加藤 妙得

5. お世話になった方々

<u>名前</u>	<u>役職・所属</u>
勝川 宏明	パナソニックコネクト エグゼクティブコンサルタント
丸山 真明	三鷹市 企画部企画経営 課長 広報メディア課広報メディア政策担当 課長
佐藤 眞菜	三鷹市 企画部企画経営課 主任
津谷 永光	秋田県北秋田市 市長
高田 徹	北秋田市総合政策課 係長

坂本 康彦	北秋田市総合政策課 主査
畠山 英利	北秋田市 総合政策課 移住・定住支援室
千葉 祐幸	北秋田市 商工観光課
田中 るい	株式会社第一興商店舗事業本部 店舗事業推進部営業推進課 リーダー
高橋 明子	武蔵野市 CIO 補佐官
大沢 彰	一般社団法人日本テレワーク協会 主席研究員
東方 柚葵	亜細亜大学
内田 有哉	都市創造学部 4年 岡村ゼミ所属
森本 雄大	
大場 羽	亜細亜大学 都市創造学部 3年 サイトウゼミ所属
加藤 妙得	津田塾大学 学芸学部 国際関係学科 4年

6. 調査の概要

6-1 調査訪問先と日程:

NO.	日時	訪問先	都市
1	7/20 午前	北秋田市役所 本庁舎	秋田県北秋田市花園町
2	7/20 午後	ワーケーション施設	秋田県北秋田市阿仁銀山字下新町
3	7/20 午後	北秋田市役所 阿仁庁舎	秋田県北秋田市阿仁銀山字下新町
4	7/21 午前	北秋田市役所 第二庁舎	秋田県北秋田市花園町 15
5	7/21 午後	鷹巣スポーツ	秋田県北秋田市住吉町 4-23
6	7/21 午前	フォレストエナジー Volter	秋田県北秋田市綴子宇古関 83
7	7/21 午後	秋田県信用組合	秋田県秋田市南通亀の町 4-5
8	7/25 午前	カラオケビッグエコー 吉祥寺店	東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-2-7 吉祥寺アルファビル 3F
9	8/2 午後	野村不動産 H'T 吉祥寺 シェアオフィス	東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-15-9 岩崎吉祥寺ビル 6 階

7. 実施内容 調査訪問別報告

7-1 Kick Off 会議

開催日時 令和 5 年 7 月 4 日 13:15～15:00

開催場所 亜細亜大学 7 号館 3 階 9 号室

一部オンライン参加

7-2 参加者(敬称略):

責任者/ 教授	岡村 久和	亜細亜大学 都市創造学部 学部長
	勝川 宏明	パナソニックコネクト エグゼクティブコンサルタント
	丸山 真明	三鷹市 企画部企画経営 課長 広報メディア課広報メディア政策担当 課長
	佐藤 眞菜	三鷹市 企画部企画経営課 主任
	高田 徹	北秋田市総合政策課 係長
	坂本 康彦	北秋田市総合政策課 主査
	畠山 英利	北秋田市 総合政策課 移住・定住支援室
	千葉 祐幸	北秋田市 商工観光課
	田中 るい	株式会社第一興商店舗事業本部 店舗事業推進部営業推進課 リーダー
	高橋 明子	武蔵野市 CIO 補佐官

	大沢 彰	一般社団法人日本テレワーク協会 主席研究員
学生	東方 柚葵	亜細亜大学
	内田 有哉	都市創造学部 4年 岡村ゼミ所属
	森本 雄大	
	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	
	大塚 亮太郎	
	増田 圭祐	
	小木曾 悠太	
	中川 連	
	北村 野々子	
	荒井 彩花	
	易 敏	
	陳 一雯	
	易 秋玲	
	任 我飛	
	三成 海太	亜細亜大学
	菊池 拓実	都市創造学部 2年
	加藤 妙得	津田塾大学
		学芸学部 国際関係学科 4年
	(撮影協力)	サイトウ・アキヒロ教授
		サイトウゼミ一同

<写真(オフィス、意見交換背景等)>



Kick Off 会議の様子



会議後の集合写真

7-3 会議内容

(1)プロジェクト概要説明、プロジェクトへの期待、そのための活動計画

(2)ディスカッション

(3)発表・講評・意見

(4)スケジュール確認

(1)プロジェクト概要説明、プロジェクトへの期待、そのための活動計画

Kick Off 会議の主な目的はこのプロジェクトのすべての参加者の顔合わせ、プロジェクト内容の確認であった。

はじめにプロジェクトの概要を亜細亜大学都市創造学部 3 年、またこのプロジェクトのリーダーである濱田が行い、岡村学部長がプロジェクトの意義についての説明をした。

以下、濱田、岡村学部長の言葉をまとめた内容である。

コロナ禍によりテレワークが大きく推進され、またテレワークが広く認知・実用されるようになった。移動時間短縮などの利益がある一方で、テレワークによる弊害が起きているのもまた事実である。今後テレワークをより普及させるためにはテレワークにおける弊害の原因を解明し、改善の提案をする必要がある。これらを達成するために、三鷹市、北秋田市、第一興商、野村不動産にテレワーク施設の見学や、テレワークに関しての聞き込みの協力依頼を願う。

上記の概要・意義を補足する形で大沢主席研究員が、テレワークの定義の説明や現状の課題について述べた。

そして今後の活動として、北秋田市・三鷹市へのフィールドワーク、第一興商が運営する BIG ECHO・野村不動産が運営する施設見学をすることが述べられた。

(2)ディスカッション

ディスカッションでは[テレワークのメリット・デメリット・課題・「こんなテレワークは嫌だ」]についてチーム分けをし、各自の意見を述べた。

大学生はオンライン授業についても述べた。また時間の都合上、ディカッション内容の「課題・「こんなテレワークは嫌だ」」まで話が到達していないチームもあった。

発言者が確定しているもののみ、意見の最後に発言者の名前を明記する。

以下、チームの振り分けとメンバーである。

三鷹市チーム	丸山 真明	三鷹市 企画部企画経営 課長 広報メディア課広報メディア政策担当 課長
	佐藤 眞菜	三鷹市 企画部企画経営課 主任
	高橋 明子	武蔵野市 CIO 補佐官
	三橋 加奈子	亜細亜大学
	増田 圭祐	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	易 秋玲	
	菊池 拓実	亜細亜大学 都市創造学部 2年
北秋田市チーム	高田 徹	北秋田市総合政策課 係長
	坂本 康彦	北秋田市総合政策課 主査
	畠山 英利	北秋田市 総合政策課 移住・定住支援室
	千葉 祐幸	北秋田市 商工観光課
	吉村 瞳子	亜細亜大学
	中川 連	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	荒井 彩花	
	任 我飛	
	三成 海太	亜細亜大学 都市創造学部 2年

3,4年チーム	大沢 彰	一般社団法人日本テレワーク協会 主席研究員
	東方 柚葵	亜細亜大学
	内田 有哉	都市創造学部 4年 岡村ゼミ所属
	森本 雄大	
	大塚 亮太郎	亜細亜大学
	北村 野々子	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	陳 一雯	
企業チーム	勝川 宏明	パナソニックコネクト エグゼクティブコンサルタント
	田中 るい	株式会社第一興商店舗事業本部 店舗事業推進部営業推進課 リーダー
	佐藤 駿	亜細亜大学
	小木曾 悠太	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	易 敏	
	加藤 妙得	津田塾大学 学芸学部国際関係学科 4年生

三鷹市チームのディスカッション内容

①メリット

- 移動時間が減らせる。(三橋、易秋玲)
- 遠方からくる人でも障がいを持っている方でも参加することができる。(丸山)
 - 講習とかで使う際には、遠方の方からも障がいをもっていて、来ることが難しいひとでも参加することができるため、喜んでもらえることが多かった。

②デメリット

- 個人負担が大きい。(丸山)
 - 会社にいたらかからないお金(電気代・光熱費)が自宅だとかってしまう。
- 市役所は窓口対応がほとんど在宅でできることがほとんどない。
- 勤務時間の ON/OFF をはっきり決められない。(?)

- →以前、違う職場にいた時スマホに会社にかかってきた電話を取れるようなアプリを入れていて、外部から会社にかかってきていた電話を自宅でも取れるようにしていたため、常に仕事をしている状況だった。そのため勤務時間がしっかりと定まっていなかった。
- 環境をつくるのが大変だった。(?)
 - 家で仕事をしていても目に付くものがたくさんあるため環境を整えることが大変だった。
- 相談がしにくい。(？、菊池)
 - 近くにいたらすぐに会話して解決できるようなことも、相手の状況が分からないから相談ができない。今相手がどのような仕事をしていて、手が空いているのか、相談できるような状況なのか見ることができない。
- 設備によっては通信が不自由。(菊池)
 - 電波が重くなってしまうためカメラをオンにしないで使っていた。カメラをオフにしているため、どこかに行ってしまう人や寝ている人もいた。
- 話し合いが進まない。(三橋、易秋玲、菊池)
 - ブレイクアウトルームに分けられても、誰かが話し始めるまで誰も話さないため、話し合いが進まない・ディスカッションができない。先生の立場からして、ブレイクアウトルームを見に行っても静かで誰も話し合っていないことがあった。(高橋)
- 部下の様子が見られない。(丸山)
 - 部下が今どんな仕事をしているのかを見ながら仕事を振ることもある。パソコンを覗き、部下の仕事のスピードはどうかなど、仕事をする様子が見たくても見ることができない。

③意見

- ペーパーレス化を進めていく必要がある。(丸山)
 - 市役所は紙媒体での仕事が多いため、ペーパーレス化ができていないとテレワークでできることが少ない。
- 週に一回テレワークができれば良いと思う。(高橋)
 - みんなが何やっているのかを気にしなくて済む。行かなくていいだけで通勤もなく、自分のペースで仕事をするすることができる。電話もないため、仕事に集中することができる。テレワークにはいろいろなパターンがあると思う。

ディスカッション全体の雰囲気

- 実際に働いている人の意見と学生の意見の両方の視点からディスカッションすることができた。

北秋田市チームのディスカッション内容

①メリット

- 移動時間が減らせる。(特に出張)(高田)
 - 出張の移動時間は負担が大きい。テレワークをしたことはないが、実際に出張が

テレワークになれば大幅に移動時間を減らせて良いと思った。

②デメリット

- 学ぶ雰囲気がない。(任我飛、荒井)
 - 大学 2 年の時にほぼ一年間行われたリモートでの授業では、全体に大学で学ぶという雰囲気が醸成されなかった。
- やはり家で一日中画面を見続けているという生活で、学ぶという雰囲気を持つことは大変難しく、気持ちを維持することも困難だった。
- 設備が整っていない。(坂本)
 - 設備が整っていなければスムーズにテレワークを行うことは難しいので、設備が整っているところと比べると秋田ではテレワークは浸透しづらい。
- 何を言っているのかわからない。(聞き取れない)(坂本)
 - 設備の問題もあるが、方言は対面よりも聞き取ってもらいにくくなる。
- トイレに行くタイミングがつかめない。(吉村)
 - 会議が長引いたときなどに、いつ自分が話す番が回ってくるかわからず、トイレに行くタイミングが非常につかみにくい。例えば対面授業であれば授業中トイレに行っても特に問題はない。
- 人がいると恥ずかしい。(中川、三成)
 - 実家住まいの学生は、日や時間によっては家族が家にいる間オンライン授業が行われる。その際家族の話声や、自分に対しての呼びかけなどが音声に入ると非常に恥ずかしい思いをする。
- ネット環境が悪いと ZOOM が止まる。(任我飛、荒井)
 - 生徒側も教授側もネット環境が悪いと ZOOM が止まり、授業が遅れることがあった。
- 気軽に相談できない。(中川、三成)
 - 対面に比べると日本人特有の「空気を読んだ」コミュニケーションが難しくなる。いつ質問をしていいのか、相談ができるのかという間合いが非常に読みづらくコミュニケーションを取らない傾向になりやすい。
- 集中できない。(中川、三成)
 - 自分の部屋には自分を誘惑するものが多く、画面を長時間注視することに疲労し漫画やスマートフォンなどに手が伸びてしまう。
- 個室が狭すぎる。(任我飛、荒井)
 - レンタルの個室は自分の部屋や学校と比べて狭く、圧迫感がある。そのためリラックスして課題や授業に取り組むことが難しい。
- 集中しにくい。(任我飛、荒井)

- 「集中が出来ない」と同様。
- 友達が出来ない。(任我飛、荒井)
 - オンライン授業では対面と違い、基本的にはお互いの顔が見えない、会えない。そのため対面と比べて授業後にどこかへ行って友達になる、話が盛り上がり友達になるというケースは非常に少ない。

③意見

- テレワークを成立させるためには専門ソフトが必要である。(坂本)
 - テレワークに対してはセキュリティの面で特に不安がある。しっかりとしたセキュリティが確立されなければあまりテレワークをしたいとは思わない。

④テレワークの課題

- ZOOM の人と交わるとその場の空気感を共有できない。
- 会議がまとまりにくい。
- 今回の会議においては周りもディスカッションで騒がしかったため、一人(吉村)で ZOOM の人たちと話す形になってしまった。
- 今回の会議においては、課題はテレワークのメリット・デメリット・「こんなテレワークは嫌だ」だった。
 - 空気間の共有ができるオンラインの需要がある。

ディスカッション全体の雰囲気

- ZOOM の部屋分けで少し時間がかかった。
- 自己紹介は非常に和やかに進んだ。
- 自己紹介に時間がかかりディスカッションの時間が約 6 分しか取れなかった。
- 吉村・北秋田市ペア、任我飛・荒井ペア、中川・三成ペアに分かれて話し合っ最終的に全体の意見を出し合った。

3・4 年生チームのディスカッション内容

①メリット

- 移動時間を有効活用できる。
 - 普段の朝夕の通学時間を他のことに使うことができる。
- 終業後、すぐに自分の時間を確保できる。
 - 仕事や授業を終えた後の時間も、移動ではなく別のことに使える。
- 翻訳機が両画面で開くことができる。
 - 画面を半分に分けて使える。例えば、片方で ZOOM などの通話アプリを使い、もう半分

を翻訳機や辞書などのサイトやアプリを同時に使える。

- 音声入力ができる。
 - マイクをミュートしている間に、音声入力機能を使い、手間を省ける。
- 雨の日も鬱じゃない。
 - 屋内でできるものなので、天気等とは関係ない。雨が降っても外に出る必要がないのはとても大きなことだと思う。
- 負担が少なく便利。

②デメリット

- 場所の確保が必要。
 - ZOOM を使う場所の確保。カメラをオンにする場合は周りが綺麗な場所を選ぶ必要がある。ダメならカフェ等もありだが、お金がかかる。
- インターネット問題、回線が必要。
 - オンラインで行うので、もちろんインターネット回線が必要である。回線がある場合でも、回線が弱い、もしくは混み合っていると接続に負荷がかかる場合があるので対策が必要。
- 運動不足になる。
 - 椅子に座ってパソコンを開いて画面を長い時間見ることになるので、普段の通勤通学等の移動がなくなる分、多少の運動量でも減る。
- Face to Face コミュニケーションが少ない。
 - カメラ越しの会話と対面の会話は違う。やはり会って会話や授業を受ける方が良いと思う。ブレイクアウトルームなど、グループワークやペアワークなどが多くない限り周りとのコミュニケーションが少ない。
- 体に悪い、視力低下。
 - 体に悪い。目や肩、腰など部分的な疲れが出る。適度の運動や途中休憩が必要。
- 発言回数が偏る。
 - 回線の問題上(個人差あり)、複数の人が同時発言するとハウリング等の問題が発生する場合がある。
 - 授業などで先生が質問をして答える時に、特定の決まった人ばかり発言すると他の生徒が発言できなくなる。そして成績にも関係する。
- 友達と会えない。
 - オンライン上でコンタクトを取り合わないと対面で会うのが難しい。
 - お互いのカメラを通じて顔は映るが、テレワークが長い間続くと現実で対面するのは難しい。

- 夏によく止まる、電気使用量。
 - 電力消費の多い夏では、場合によっては回線が止まる可能性がある。
- 仕事のオンオフの切り替えがしづらい。
 - 室内で行っていると、外の空気や日光を浴びないので気持ちの切り替えが少し困難になる場合がある。
- 生活音にイライラしてしまう。
 - 家の中で行う場合では、親や兄弟が同じ時間にいる場合があるので生活音が気になるケースが多い。
- 充電場所を意識しなければならない。
 - ZOOM などのアプリは電池を多く使うので、パソコンや携帯をある程度充電しておかないといけない。いざ電池が切れた時に周りにコンセントがない場合は致命的なので、あらかじめコンセントの近くでやると良い。

④テレワークの課題

- 画面共有するときに、何らかの原因でひたすら待たされる状態をどうにかできないか。
 - カメラを ON にしている人と OFF にしている人がいてバラバラなので、どちらかに統一すれば良いのではないか。
- オンライン授業(テレワーク)を取り入れる中で、体を動かす時間を設けた方がいい。
- 発言回数等の改善などがあれば良いと思う。
- グループに分けられた際に、他のメンバーが一切話さないのをどうにかできないか。

企業チームのディスカッション内容

①メリット

- 時間の制約がない。結果として、お子さんの迎えや、家事、趣味などに時間を費やすことができ、負担が軽くなるのでは。(田中)
 通勤や通学時間がないというだけでも、今まで平均往復 2 時間ぐらにかかっていた時間を有効活用できたのは気持ちと体力の面ですごく楽になった。遠くから毎日満員電車に乗るというのはかなり厳しいところはあるので、通勤通学時間がなくなったことで、取り組みに対する意識や集中力が向上した人は多いだろう。(学生)
- テレワークは休憩時間を自分で調整できた。結果、入社して厳密に休憩時間が決められていた時よりも、仕事が効率よくこなせる様になっていると感じる。(田中)
 時間ではなく目的やタスクが終わる毎に休憩をとるなど自分で休憩時間を臨機応変に設定できる事で、モチベーションと仕事の効率を最大化できるのではないか。しかし大学は、休み時間と講義時間が決まっている。平日 1 日中画面を見続ける生徒も多く、休み時間が確保されていて

も1日が終わる頃には目の疲れや姿勢の悪化といった声が聞かれた。(学生)

②デメリット

- 話しにくい。対面の人との付き合いが入社する時のメリットだったので、情報共有、意見交換をしたい時のテレワークは不便に感じる。『田中さんはテレワークと出社はどちらが好きですか?』
 - まだ出社した方が良い。理由は面と向かって話すのが大事だから。ただ、メリットである「時間の制約」と両立させ、コミュニケーションが今よりもっと円滑にできる環境になれば、テレワークが好きになると思う。(田中)

- 友人が全くできない。対面で生徒同士の交流がなかったから。コロナ前は、「学校に行って友達ができ一緒に帰る」というサイクルが当たり前だったが、オンライン授業導入後、家で授業を受ける事が当たり前になった。

対面して友人とコミュニケーションを取れる事で、分からない課題の取り組み方を教え合ったり、談笑したり様々な角度の意見を聞ける時間が一定時間担保されていた。その時間がなくなった事で、コミュニケーションを通して得ていた課題解決案や、わからない事を聞けない状態に陥った。何事にも1人で取り組む時間が増えた。(学生)

- デスクトップなどの出勤を前提としている機器ばかりだと、家では携帯で仕事をする事になる。実際、書類確認しづらかったり、機能的に携帯の限界を感じた。(田中さん)

対策案:パソコン貸し出しがあった事でオンライン授業の受講ができたし、便利のため、それを企業でも活かそうだと考える。(加藤)

- Wi-Fi環境の整備が不十分で仕事や授業ができない。オンライン電話ツールの使い方に手間取り、会議や授業が進まない。

大人数の講義では接続に問題が発生し、多くの学生が授業に集中できなかつたり、オンラインに不慣れで、生徒から使い方を教わる教授もいた。先行投資の時点で、Wi-Fi環境や貸し出し体制を時間とお金をかけて整備する必要があると感じる。(田中さん、加藤さん、亜大メンバー)

3. ディスカッション終了後、各チームで出た意見を発表しあった。その後、岡村ゼミ3年生濱田によりまとめ・講評が行われた。

7-4 まとめ

Kick Off会議はこのプロジェクトにかかわるすべての人が顔を合わせる機会となった。ディスカッションでは主に時間、環境、人とのコミュニケーションについて話し合われた。また今回の会議は大学生にとって、今後社会に出た際に自分がテレワークをするかもしれないという漠然とした考えから、現時点でのテレワークの課題を社会人から聞くことでより具体的に将来を考える機会となった。

8. 北秋田市訪問

8-1 調査訪問先別報告:北秋田市役所 本庁舎

日時	2023年7月20日(木)
訪問先	北秋田市役所 本庁舎 秋田県北秋田市花園町19-1
対応者	津谷 永幸(北秋田市市長) 高田 徹(北秋田市総合政策課係長) 坂本 康彦(北秋田市総合政策課主査) 畠山 英利(北秋田市総合政策課 移住・定住支援室) 千葉 祐幸(北秋田市商工観光課)
URL	https://www.city.kitaakita.akita.jp/archive/contents-127
分類	北秋田訪問

8-2 調査団員(敬称略):

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	

8-3 組織・概要(設立・機能)

「北秋田市は秋田県の北部中央に位置し、面積は 1152.76 平方キロメートルと、秋田県全体の約 10 パーセントを占めている。気候は、内陸性で年較差が激しく、冬季は低温で山間部は積雪量が多いため森吉地域、阿仁地域は特別豪雪地帯に指定されている。また、県立自然公園に指定されている森吉山麓を中心にクマゲラの棲むブナの原生林や多数の瀑布が散在し、優れた自然景観や山岳溪流

に恵まれている。この豊かな自然環境は、今まで私たちにやすらぎと経済効果をもたらし、マタギの生業を伝えてくれた貴重な財産となっている。」

(本市役所ホームページより抜粋)

8-4 写真(オフィス、意見交換背景等)



8-5 説明内容

北秋田市長の津谷様に貴重な時間を頂き、地方のテレワークの現状とイメージについての質問をした。

8-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1. 私たち(岡村ゼミ生テレワークチーム)ではテレワークやワーケーションについて勉強や調査を行っている。テレワークやワーケーションについて市長はどのように考えているか。

A1.

- はじめはテレワークやワーケーションについて関心が薄かった。
- しかしコロナ禍でテレワークやワーケーションの重要性に気が付いた。
- コロナ禍では市役所に入れる人数を制限していた。
- 私(市長)自身も2022年1月にコロナにかかり、予算決めのためにテレワークを初めて行った。
- 回線や機械の問題はなくスムーズに業務にあたることが出来たが、画面の先にいる相手の表情などを読みづらかったことは良くないと感じた。
- (市長の)友人などはコロナ禍が始まってからずっとテレワークをしていた。初めは楽だと感じていたが、だんだんと孤独感が強くなり心が病んでいった。
- そのためテレワークには心のケアが必要だと考えるがそれは難しいことだとも思う。
- 4つの街が合併してできた北秋田市では、お年寄りが多いためテレワークをしたくてもできないという人が多くいる。
- コロナ禍により、小・中学校では「(学校が)来るな来るな」という方針を取らざる得なくなり、子供たちが学生生活を最も楽しめる遠足・修学旅行・部活といったイベントが中止となってしまった。

Q2. 津谷市長自身がテレワークを体験したうえで、なにかメリット・デメリットはあったか。

A2.

- メリットは移動の時間などを考えなくていいことと、自宅なので休みがとりやすいこと。
(例:水分補給)
- 会合(事前準備やミーティング)が楽になる。
- 環境を整えることでテレワークはやりやすくなるのではないだろうか。
- デメリットはやはり表情が読みづらいことだ。そのためアクションが取りづらい。
- しかし、(市長)自身がテレワークをして現在行っている自分の仕事の半分はテレワークでできると思う。

Q3. ワケーションの取り組みを拝見しました。特に力を入れていることは何ですか。

A3.

- マタギ体験型のワーケーションに力を入れている。マタギに見られるピラミッド型を企業にも利用したい。

- このワーケーションでは新卒の研修などで、マタギの意志の伝達の方法や歴史や文化を実際にマタギと山に入り、マタギから話を聞いて学んでもらう。
- ワケーションでは北秋田市の自然・文化・町歩きを特に知ってもらいたい。
- また都会の喧騒に疲れた人たちの心をケアしていきたい。
- 2023年8月から保育留学が始まる。保育留学は2週間県外の人に北秋田市に来てもらい北秋田市の保育園、テレワークを体験を通じて北秋田市の魅力を知ってもらう。
- 取り組みの背景には北秋田市の人不足、主に都心の保育園不足がある。
- テレワークとマタギで市の平均年齢を下げる。

Q4. 私たち(テレワークチーム)を手伝えることはありますか。

A4.

- 地元の人では気づかないことを指摘してほしい。例:人の受け入れの仕方、展示の仕方など些細なことでもいい。
- デメリットとして、テレワークの初期は社員が孤独感で病むことがあった。窓口接待の難しさもあるのでやりたくてもできない状態。資料を掲示しながらの会議は対面の方が良いと言っていた。テレワーク中(特にZOOM中)に社員は水を飲むのにも気を遣う。急に連絡を受けることもある。

8-7 まとめ

市長には非常に丁寧に質問に答えていただいた。やはり地方では比較的長い移動が必須であり、コロナ禍に影響を受け、テレワークの必要性を強く感じた。しかし、テレワークを続けているうちに孤独感を感じやすくなり、鬱になる人も少なくない。相手の表情が読み取りにくいという課題は機械のスペックをあげる必要があるがコストがかかるので住民が少ない地域では難しい。北秋田に訪れた人のためのワーケーション施設にも力を入れていた。移住者を増やすために様々な活動をしている。

9. 調査訪問先別報告：鷹巣スポーツ

日時	2023年7月21日(金)
訪問先	有限会社 鷹巣スポーツ 秋田県 北秋田市住吉町 4-23
対応者	相馬 勤(有限会社鷹巣スポーツ社長) 高田 徹(北秋田市総合政策課係長) 坂本 康彦(北秋田市総合政策課主査) 畠山 英利(北秋田市総合政策課 移住・定住支援室) 千葉 祐幸(北秋田市商工観光課)
URL	https://r.goope.jp/takanosu-sports/
分類	有限会社

9-1 調査団員(敬称略)：

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	

9-2 組織・概要(設立・機能)

1976年にスポーツ用品店として開業し、その後は一階に飲食店、二階にはカラオケ施設として事業を展開した。新型コロナウイルスの流行により、既存事業の継続が困難になったため、市の助成金を活用し、ワーケーション施設の修築工事を実施。商店街の一角に位置し、鷹巣駅や北秋田市役所や市民交流施設の「コムコム」とも近い利便性の高さと、元カラオケボックスという特性を生かし、防音性に優れたスモールオフィスを提供する。

9-3 写真(オフィス、意見交換背景等)



9-4 説明内容

<施設の状況>

- 学生は使用禁止で社会人の方を狙いとしたレンタル式で個室を貸し出している。
- 一日内の貸し出し時間は半日(3時間半)～1日(7時間)、長期期間契約としては1ヶ月～1年間に設けられており、7部屋(うちふたつは大部屋)のうち5部屋が年間契約で埋まっている。具体的には、マッサージ店や結婚相談室、美容の専門店である。
- 値段は1か月で、小部屋が2万6400円、大部屋が3万9600円である。
- 共同のキッチンとトイレが設備されている。キッチンに関しては風情を感じさせる、一段下がった昔ながらのタイプのコンロがある。
- 駐車場は中心市街地の立地にもかかわらず、1カ月1台2000円という破格の値段で貸し出ししている。
- 6人用のイスと机のセットが2つ用意されており、高速Wi-Fi環境を利用できるスペースが公共スペースにある。

<レンタルオフィス室内>

- 元々カラオケルームだったこともあり全部屋防音だが、窓が無かったため、レンタルオフィスへと改築するにあたって窓を設置。各部屋の入口ドアにはカラオケ事業時代の、のぞき窓が未だに残っておりカラオケ施設としての形が色濃くみられる。
- 小さい部屋は4畳ほど、大部屋は6畳ほどの長方形であり、エアコンは全部屋に完備されていたが、契約前の室内にあるものは丸テーブル1つと椅子を4つで最低限のものしかいないため、契約後は利用者が各自で必要となるアイテムをそろえる必要がある。
- 昔のカラオケルームということで壁紙に古いデザインがあり、床の様子が張り替えられた個所と昔の状態のままの箇所がある独特な雰囲気。

9-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1. 男性用と女性用のお手洗いの場所が離れているのは、何か理由があるのか。

A1. トイレは市から許可を得るために女子トイレをキッチンの近くに新たに設置したため、男女でトイレが別の場所にある。

9-6 まとめ

- コロナ禍の変化にも、テレワークの需要を的確に察知しカラオケ施設からワーケーション施設へと、迅速かつとても柔軟に対応された82歳相馬勤社長の判断力と行動力に、驚かされた。
- 鷹巣のメインストリートはシャッターを閉めるお店も目立つ中で、レンタルオフィス鷹巣スポーツビルを含め、市内に6か所のテレワーク対応施設がある。鷹巣スポーツでは利用者の大半がすでに年間契約で部屋を利用しており、施設自体も7割が埋まっていた事から、ワーケーション施設の需要と供給がとても上手くマッチした例の一つだといえる。
- 各自で細かな道具などを持ち込む必要はあるものの、リノベーションした施設内には防音壁、高速Wi-Fi、エアコンなどが備わっているため、スモールオフィスとして十分な環境だといえる。一方、セキュリティ対策として入口のドアがカラオケ使用のガラス張りとなっているため、視覚的な情報漏洩の危険性があると感じた。

10. 調査訪問先別報告:北秋田市役所阿仁庁舎 本庁舎

日時 2023年7月20/21日(木)

訪問先 北秋田市役所 阿仁庁舎・本庁舎
秋田県北秋田市阿仁銀山字下新町41-1
秋田県北秋田市花園町19-1

対応者 高田 徹(北秋田市総合政策課係長)
坂本 康彦(北秋田市総合政策課主査)
畠山 英利(北秋田市総合政策課 移住・定住支援室)
千葉 祐幸(北秋田市商工観光課)

URL <https://www.city.kitaakita.akita.jp/genre/shisei>
<https://www.city.kitaakita.akita.jp/archive/contents-127>

分類 北秋田訪問

10-1 調査団員(敬称略):

責任者/ 教授	岡村 久和	亜細亜大学 都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅 佐藤 駿 三橋 加奈子 吉村 瞳子	亜細亜大学 都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属

10-2 組織・概要(設立・機能)

調査訪問別報告1と同様。(23ページ参照)

10-3 写真(オフィス、意見交換背景等)



10-4 説明内容

- 1976年に銅の産銅日本一となった、阿仁銅山。日本中から労働者が集まり、銀や銅の産出を行っていた事で、世界中から注目された。
- 「阿仁街歩きマップ」では、阿仁銅山周辺に多数存在する各宗派の寺院を、街のいにしへの繁栄を偲びながら、歴史、文化、伝統を深めることができる。自然に触れ、町歩きを通して、癒し空間も提供してくれるため、テレワークや仕事での心身疲労の回復に最適である。
- 市内の平均年齢を下げるために、10年間ほどウェブサイト等を活用し、国内外のIターン者の移住を目指している。主なアピール内容としては、新卒者全員に助成金支援や、新しくテレワーク施設として改築され、観光客も多く集まる阿仁合駅を中心としたテレワーク対応施設と、豊かな観光資源である。

電子化と紙ベースについて

- お客様情報保護などセキュリティ対策と資金的な負担から、出先でのメールが使用できず市民と対面対応を行う一方、データ改ざんなど懸念点はあるものの会計処理といった時間のかかる作業はテレワークも検討している。以前に商工会が電子クーポンの配布を検討したが、高齢者が多く電子機器の使用が難しかったため市内の普及率はとても低かった。また、市内200店舗ほどある中でわずか50店舗ほどしか電子クーポン導入に賛同しなかった。

- 企業に対して、国税庁が提供する e-tax は既に導入し対応可能だが、その他の公共整備のために各企業が用意する資料や見積もり書などは紙ベースで協議している。主な要因としては、県の電子システムでは建設的であり、不十分な点も挙げられる。新システムの導入は莫大なコストがかかるのに対し、紙ベースのほうがコストを抑えられるため、電子化が進んでいない現状にある。
- 相談事＋手続きをしたい人にとってはその場で疑問点が解決し、職員の方も、相手の希望をヒアリングしながら察知でき、適切なサポートができるので、この場合は対面が双方にとってとても有効である。対面と近い状態で、気軽に相談できるよう「オンライン相談会」をホームセンターに設置。スペシャリストに相談ができる。現段階では、マイナンバー申請などが可能で、機械の操作は職員 1 人が裏で待機し、必要に応じてサポート。しかし、スペシャリストの人数にも限りがあり難しい面もある。
- 本庁舎、支所の他に出張所も存在している。1 番遠い人はそれでも車で 15 分ほどかかる。全体会議や緊急での会議は全員ができるだけ対面で集まる。
- AI/アバター対応について窓口や電話などでクレーム対応に追われ、業務に支障をきたすことが多い。カスタマーハラスメントにより市役所を辞める新人が多いので、AI やアバター対応などで職員のストレスを減らしたい。しかし、アバター対応では相談に乗ることは難しく、市民が求めているものを積極的に引き出すということが出来ないため、悩んでいる。

10-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1. 鷹巣地域や阿仁合地域以外の他の地域でも事務手続きはできるのか。

A1. 市民とのやり取りは、支所の窓口センターで受け付けており、鷹巣の本家へ送付、電話確認を行った上で手続きが行える。

Q2. カスタマーハラスメントやメンタルヘルス対策として、職員の負担を軽減するための窓口対応を減らす対応は取っているのか。

A2. ホームセンター内にオンライン相談会を行えるブースを設置し、その場でマイナンバーの申請を行うことができる。電子機器の使用方法などをアシストするスタッフも常駐しているため、高齢者の方でも安心して手続きを行える。ただ、本当に相談したい人には、親身になって対応することができる対面が有効だと感じる。

Q3. コロナ後の市役所の働き方で、変化はあったか。

A3. 個人情報保護の観点から、対面のほうが安全であるため、市役所としての働き方は変わらない。

Q4. 北秋田市の転入者はどのような状況か。

A4. 聞かないで欲しいくらい少ない。転出者と比較すると10分の1にも満たない。最近では東京に仕事があるがテレワークができるので北秋田に引っ越してきたという方がいる。

Q5. 転入者を増やすためにしていることはあるか。

A5. 助成金を多く出している。夫婦や子どもがいると金額が増える。例えば23区に住んでいた方が北秋田に来ると、子ども1人あたり100万円の助成金、夫婦を含めると400万円ほどにもなる。

Q6. バーチャルやメタバースに関心はあるか。

A6. 関心はあるが、高齢者の利用が難しい。一般市民が気軽に使えるテクノロジー待ち。画素や通信の問題もある。

Q7. 窓口対応でのカスタマーハラスメント防止法の1つとして窓口にAIやバーチャルで対応するのはどう思うか。

A7. 高齢者にとって機械はやはり難しいと思う。もちろん、機械化することで従業員のメンタルのすり減りは軽減されるが、結局人対人に落ち着いてしまいそう。

Q8. テレワークとなるとペーパーレス化が進みますがどのように考えているか。

A8. 一応既にスマホやタブレットで提出できる書類はあるが、実際に市役所に足を運んでいる方が多い。紙とデジタルを併用する必要がある。

10-6 まとめ

- 主に電子化と紙ベースについて話し合いを行ったが、役所仕事ということもあり、情報の保護の観点からやはり紙での手続きや、管理の安全性はコロナ後でも変わらない。
- 一方で、デジタル技術の進化と職員の負担軽減のためにも、北秋田市がすでに導入しているホームセンターでのオンライン相談会や会計処理のデジタル化は、高齢者が多く、社員へのパソコン支給は資金面で厳しい状況にあるものの、山間部へアクセスが難しい北秋田市のような地方自治体でも取り入れやすい対策であった。
- オンライン予約の範囲を拡大するなど、離職が高い傾向にある市役所職員の負担軽減に努めることがテレワークやワーケーションの促進にも繋がる。
- 市としては積極的な移住支援を行ったり、山間部の住民でも行政手続きが行いやすい環境を整えることで、市の人口減少を止め、長い歴史のある同市をより活発にしようとする狙いが見えた。
- 市役所の業務で『セキュリティ面』と『お金』の関係上、出先でメールが使えないのが現状にあり、また新システムの導入も莫大な資金が必要となり実現が難しい事からも、今後のテレワークにつ

いて考えていく上で、この2つのキーワードはとても重要になるのではないか。

- 北秋田では少子高齢化が深刻であり転入者に対しての助成金に力を入れている。
- もっとテレワークが普及すれば、北秋田のような地方にも足を伸ばすことが出来、生活の幅が広がり、地方活性化に繋がる。
- 高齢化と人口減少が激しい地方でのデジタル化の普及は時間がかかると感じた。
- 市役所窓口勤務の方はクレーム対応で精神を病むことがある。そこで1部の窓口をVtuberのようなバーチャルのAIで対応することによって人件費の削減やスタッフのメンタルの安定が図れる。
- 北秋田ではIターンが深刻で仕事や進学によって北秋田を巣立っていく人達が再度、北秋田に戻って住むという人は極めて少ない。そのため、Uターンを活性化させるために北秋田に戻ってきた人には上限はあるが助成金や引越し費用が出ていた。しかし、毎年の転出者は転入者の数十倍という状況であった。
- 23区からの転入者には特に助成金や補助金が多かった。加えて、子どもがいるとさらに増える。それほど北秋田では少子高齢化が進んでいた。
- 本業は東京にあり、北秋田に住みながらテレワークで仕事をしている人もいる。
- ペーパーレス化は非常に難しいことであった。街全体が高齢化しているのでデジタル化に追いついて来ることが出来ない。庁舎内の机や椅子の購入は紙ベースのオークションのような形式を取っているので、デジタル化すべきところを明確にする必要がある。
- 市役所の窓口対応にはクレーム等のカスタマーハラスメントが深刻であり、窓口の一部をAIに任せたいが結局人対人になりそうというもどかしい意見があった。

11. 調査訪問先別報告

日時 2023年7月20日(木)

訪問先 ワークーション施設(阿仁合駅)
北秋田市阿仁銀山字下新町119

対応者 高田 徹(北秋田市総合政策課係長)
坂本 康彦(北秋田市総合政策課主査)
畠山 英利(北秋田市総合政策課 移住・定住支援室)
千葉 祐幸(北秋田市商工観光課)

URL <https://www.city.kitaakita.akita.jp/genre/shisei>

分類 北秋田訪問

:ワークーション施設(阿仁合駅)

11-1 調査団員(敬称略):

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	

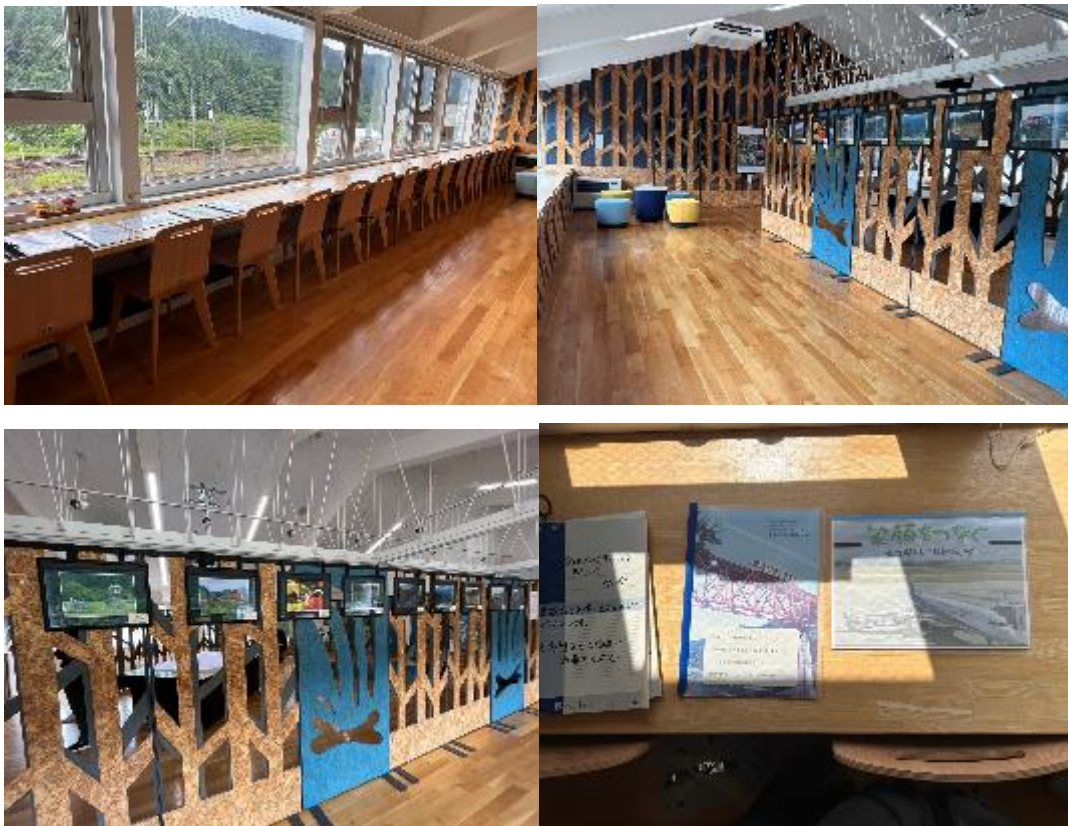
11-2 組織・概要(設立・機能)

- 北緯40度に位置した「4」の背中を背中合わせにした外観から「しあわせのえき」として親しまれている阿仁合駅。開放感のある造りで、列車や自然を見ることができるトレインビューカウンターがあるほか、観光案内所を併設している。
- 駅舎には「こぐま亭」というカフェレストランでは地場産食材を豊富に使用した料理が味わえる。沿線には景勝地として有名な「戸鳥内の棚田」で作られた米を使用した食事メニューをはじめ、上檜木内産のキイチゴを添えたミニパフェ(450円)などのカフェメニューを提供している。木材をふんだんに使用した温かみのある店内でゆっくりと過ごせる。

- 阿仁合駅の入り口横に設置されたキュートな鐘は、数字の「4」のハートマークをモチーフにしている。鳴らすと美しい音色が響き、自然と笑顔になれそう。
- 阿仁はマタギの発祥の地。阿仁合駅ではマタギ衣装、秋田美人になれるモンペ衣装の貸し出しを行っている。
- 阿仁合駅前にあるコミュニティスペース。WA ROCK (ワロック) というペイントした石を街中に隠したり見つけたりするオーストラリア発祥の遊びを発信するほか、ワークショップやイベント、おみやげ販売などを行っている。
- 森吉山の多彩な魅力を体感できる、阿仁合駅2階の待合スペース。森をイメージした空間に、プロジェクションマッピングを取り入れた大型ジオラマや、モニターを展示。キッズルームもあるほか、トレインビュー席でのんびりするのもおすすめ。

(北秋田市パンフレットより抜粋)

11-3 写真(オフィス、意見交換背景等)



11-4 説明内容

阿仁合駅二階のワーケーション施設と「北秋田森吉山ウェルカムステーション」を実際に体験し、どのような方を目的としているのか、どのような方が使用するのかを調査した。

11-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1.どのような方が主に利用するのか。

A1.現地住民にはあまり利用されず、主に観光客や、レジャー客が利用する。

Q2.運営費はどのようにになっているのか。

A2.運営は内陸縦貫鉄道がおこなっている。

11-6 まとめ

- 阿仁合駅の近くには森吉山阿仁スキー場、鉄道には北秋田の魅力が詰まっており観光客やレジャー客が多い。
- 鉄道は鷹ノ巣駅から阿仁合駅まで約1時間かかる。紅色で秋田の景色に馴染んだ車両は一車両で東京では見ることができない美しさがあった。
- 景色であった。内陸縦貫鉄道の道中では秋田犬やマタギなどの田んぼアートが多々あり、長い電車旅を飽きさせない工夫がなされていた。時折、現地の農家の方や、住民の方が手を振ってくれ心が温まった。
- 車内は大自然を望める席配置でコンセントも完備していて作業が捗る。
- 阿仁合駅の二階には内陸縦貫鉄道が運営しているワーケーション施設がある。大きな窓に面したカウンターのような机が並んでおり、自然と鉄道を眺めながら作業ができる。15席ほどあり、コンセントとWi-Fiが完備してあった。壁や仕切りは古木をリサイクルした材料で造られており、気休めもできる、落ち着いた雰囲気だった。現地に訪れたら是非使いたい施設であった。
- 二階の半分には「北秋田森吉山ウェルカムステーション」がある。北秋田の情報がプロジェクションマッピングや立体的に表現されていたり、テレビで北秋田の知りたい情報をみることができ、作業や勉強の気休めになるような空間があった。
- 机にはウェルカムステーション駅ノートという実際に訪れた方の意見や感想が5冊書かれていた。ノートには老若男女、日本全国だけでなく世界の方から、感謝の言葉やまた来たいという温かい感想で埋め尽くされていた。日付を見ると訪問者は雪が多く降る冬が多かった。
- 大きい窓で外を眺めながらの作業は東京では味わえないほどリラックスしながら集中できる空間であった。
- 豪雪地域なので室内にコートや上着をかけるハンガーがあると良いと思った。

12. 調査訪問先別報告:Forest Energy 秋田支店

日時 7月21日(金)

訪問先 Forest Energy 秋田支店
〒018-3301 秋田県北秋田市綴子宇古関 83

対応者 渡邊 寛(カスタマーセンター、マネージャー)

URL <http://www.volter.jp/>

分類 企業

12-1 調査団員(敬称略):

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	

12-2 組織・概要(設立・機能)

社名: Forest Energy 秋田支店

所在地: 〒018-3301 秋田県北秋田市綴子宇古関 83

TEL:0186-67-6015

FAX:0186-67-6016

設立:2013年12月16日

資本金:2,000万円

代表取締役:駒田忠嗣

従業員数:15名

事業内容:バイオマスエネルギープラント並びに周辺機器の開発、設計、建設、製造、販売
バイオマスエネルギープラントのメンテナンス
バイオマス発電に関する各種調査

建設業許可:秋田県知事許可
(般-29) 第81695号

電気工事業

主要取引先:VOLTER OY

(引用元:<http://www.volter.jp/company-profile.html>)

Volter の取り組みについて

- 日本の持続・再生可能な資源や活用できずにいる国内の木質資源を、地元産のエネルギー資源へと変貌させている。
- 木質バイオマスを燃料として発電をしている。輸送しやすく、コンベアでつまりを起こしにくい 63mm 以下の切削チップを使用する。間伐材や製材端材、建設資材廃棄物などを利用するのが木質バイオマス発電である。
- エネルギーのみならず、雇用の創出や定住の促進まで、地域社会が抱える問題を解決する核となる木質バイオマス発電。VOLTER JAPAN はエネルギーの地産地消を通して、発電以上の大きな価値を届けている。

(引用元:<http://www.volter.jp/>)

導入実績について

- 道の駅「たかのす」
 - 「たかのす」では 2017 年より Volter 40 の運用を開始。発電した電気を売電し収入化しながら、発電時の熱を併設した足湯へ利用する。電熱併給が可能な Volter 40 の特性を、観光資源の一部として最大限に活用している。
- フィンランド アルプア
 - Volter 40 から生成される熱と電気は、アルプアの廃校で運営されている養護施設に供給され、施設全体の電気と熱利用をカバー。その燃料は住民によって近隣の森林から収集・供給されている。また、余剰電力は地域エネルギー会社に売電。
- フィンランド オウル
 - オウルのテラスレジデンシャルエリアでは、Volter 40 × 1 台でアパート 32 世帯・テラスハウス 8 世帯分のエネルギー(熱・電気)供給が行われている。送電網と Volter 40 から電力供給を受ける事ができ、災害発生時など送電網に停電が発生した場合、Volter 40 から供給される電気と熱でライフラインを確保できる。VOLTER 社のエネルギー制御技術と蓄電池がこれを可能にしている。

(引用元:<http://www.volter.jp/reference.html>)

12-3 写真(オフィス、意見交換背景等)



12-4 説明内容

海外との業務提携におけるテレワークについて調査するために訪問した。

12-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1.どのような部分でテレワークを取り入れているのか？

A1.カスタマーセンターということでお客様から緊急で機械についての問い合わせが来る。ビデオ通話での対応(主に FaceTime、WhatsApp、LINE のビデオ通話)が多い。

Q2.テレワークを取り入れたことによるメリットとデメリットは何か？

A2.メリットはすぐに対応しなければいけないときにビデオ通話での対応がお互いに状況が分かりやすく楽だということ。デメリットは通信回線が悪いと途切れてしまうことである。

12-6 まとめ

- 日本では既に 50 台ほど売れており、販売先は自治体、大学、山を持っている個人など様々であった。
- 機械のメンテナンスやカスタマーセンターの役割をしている。拠点は日本で北秋田のみであり、他はフィンランドなどの外国であった。そのため、海外とのやり取りが多い。
- 機械のメンテナンスやカスタマーサポートの仕事では、緊急時に迅速な対応が求められる。ビデオ通話というテレワークを取り入れる事でお客様の緊急のお問い合わせに対して迅速に対応できるという面では利点である。同時に、通信回線の安定性が非常に重要である。
- 遠隔地の機械に対する直接的なメンテナンスやサポートが難しくなるため、すべての問題が遠隔から解決できるわけではない。
- リモートワークを行えるかは部署による。お客様のところに直接行かないといけない部署はリモートワークができない。電話でサポートできる部署はできる。
- ビデオ通話でわかりにくい場合は絵を使って連絡して解決していた。以前、実際にわかりにくい場合はお客様の機械の場所に行くことがあった。

13. 調査訪問先別報告:秋田信用組合 鷹巣支店

日時 7月21日(金)

訪問先 秋田県信用組合 鷹巣支店

対応者 伊藤 公孝(支店長)

URL <https://www.akita-kenshin.jp/>

分類 北秋田訪問

13-1 調査団員(敬称略):

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	

13-2 組織・概要(設立・機能)

社名:秋田県信用組合

創立:昭和23年12月

設立:昭和38年7月

本部所在地:〒010-0011 秋田県秋田市南通亀の町4番5号

本部電話番号:018-831-3551

営業地域:秋田県全域

出資金:22億12百万円

会長:北林貞男

組合員数:20,856人

自己資本比率:9.27%

預金:959億円

貸出金:613億円

店舗数:15店舗

常勤役員数:118名

(引用元:<https://www.akita-kenshin.jp/pdf/di202303.pdf>)

地域創生

- 地域経済の活性化を目指し、会員企業の事業発展と新規事業の立ち上げを目的に、北秋田にある3支店(鷹巣、森吉、合川)で平成22年にビジネスクラブ「田舎ベンチャービジネスクラブ」を立ち上げた。地域資源を活用した農業ビジネスなどの勉強会を行い、クラブの事業の初陣となったのが「にんにく栽培」事業である。また、秋田の土壌文化の復活と普及を目指し、「秋田どじょう生産者協議会」を発足した。平成29年1月には、内閣府により全国の金融機関による地方創生に向けた取り組みの優良事例として、東北の金融機関で唯一となる大臣表彰を当組合の北林貞男理事長が山本幸三地方創生担当相より受け取った。
- 福祉活動としてピーターパンカード寄附金、環境活動として地域クリーンアップへの参加、リサイクル運動、電力使用量の削減などを行っている。

(引用元:<https://www.shinyokumiai.or.jp/activity/region.html>)

13-3 写真(オフィス、意見交換背景等)



(インターネット引用)

13-4 説明内容

金融機関でどのようにテレワークを取り入れているのかを調査するために訪問した。

13-5 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1.どのような場面でテレワークを取り入れているか。

A1.会議や研修で取り入れていた。会議ではデータのやり取りであれば移動時間が短縮され実用的であった。それ以外の部分では、相手の賛成・反対の判断がしにくく、ZOOM 会議の何点である。また、お客様とのやり取り、従業員間でのやり取りで電話(貸し出しの携帯電話)がかなり多用されている。

Q2.テレワークを取り入れたことによるメリットとデメリットは何か。

A2.メリットは業務が止まることがなくなること。例えば、雪で車が動かさないとときや緊急で対面することができなくなったときに電話で繋ぐことができる。デメリットは感情や意思が伝わりにくい、ジェスチャーができないと伝わる情報が少なくなってしまうことだ。また、お互いに相手の顔が見えず、不安感がある。

Q3.コロナ禍で大変だったことは何か。

A3.対面での接客が鍵となる新規顧客の獲得が困難であったこと。そして既存のお客様が困っていないかの確認が通常時と比べてできなかったこと。

13-6 まとめ

- データよりも紙ベースの方が保管しやすく、見つけやすい。データの保管もあるが、お客様から預かったものの保管や身内が亡くなった後の処理を行っている。
- テレワークにすることは難しいがほかの地区とのやり取りはとても便利。効率と経費削減にはなるが、導入に向けた設備投資がかかる。
- 会議や研修で使用する場合は Zoom が便利だが、対面と比べ雰囲気が汲み取れないので賛成・反対の判断がしにくいところが難点である。
- 電話回線を利用することで、通信が暗号化され、プライベートネットワークを介して行われるセキュリティ対策が採用されているため、電話を利用したテレワークでも高いセキュリティが確保されている。
- テレワークと聞くと Zoom で会議やパソコンで仕事をするという印象が多いが、お客様と直接的なやり取りをしている金融においては電話もテレワークの1つとして含めていいのではないかと感じた。
- 業種によってテレワークの幅が違う。テレワーク=Zoom という概念でなければテレワークはかなり進んでいる。
- テレワークの導入により、業務が止まることが少なくなり、天候が悪いときや緊急時にもすぐに対応することができるようになった。その反面、電話ではお互いの表情やジェスチャーができないため、不安感がある。

14. ビッグエコー訪問

14-1 調査訪問先別報告:

日時 7月25日(火)

訪問先 カラオケビッグエコー吉祥寺店

対応者 田中 るい
株式会社第一興商店舗事業本部
店舗事業推進部営業推進課 リーダー

URL https://big-echo.jp/shop_info/%E3%82%AB%E3%83%A9%E3%82%AA%E3%82%B1%E3%80%80%E3%83%93%E3%83%83%E3%82%B0%E3%82%A8%E3%82%B3%E3%83%BC%E5%90%89%E7%A5%A5%E5%AF%BA%E5%BA%97

分類 ビッグエコー店舗への訪問

14-2 調査団員(敬称略):

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
	大沢 彰	一般社団法人日本テレワーク協会 主席研究員
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	
	大塚 亮太郎	
	大場 羽	亜細亜大学 都市創造学部 3年 サイトウゼミ所属
	三成 海太	亜細亜大学
	菊池 拓海	都市創造学部 2年

14-3 組織・概要(設立・機能)

社名

株式会社第一興商

住所

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-2-7 吉祥寺アルファビル 3F

TEL

0422-23-6081

設立

1976年2月(ビッグエコー店舗は1988年に福岡県福岡市に開設)

第一興商では、主にカラオケ店の運営、またそこで使用する機械「DAM」を開発している。競合他社もお客様になるので、他社の地位を下げようとするようなことはない。第一興商では、カラオケ事業以外に飲食などの事業も展開し、運営している。「DK ダイニング」と言い、ダイニングや、バー、喫茶などの3種類がある。他にも駐車場ビジネスも行っている。店内で使用されるカラオケの映像や音楽の制作は、制作本部が担当している。そこで著作権等についてJASRACとの連携も行われている。各部門を事業ごとに分散して協力し、得意分野の課題を解決している点と、テレワーク施設や荷物預かりなどカラオケビジネスから展開する点が第一興商の強みである。第一興商の働き方は、現代の企業などと比べるとかなりアナログであり、現地の社員の方たちは対面での会議や情報交換が好まれている。今回訪問した「カラオケBIG ECHO 吉祥寺店」は2014年12月17日にグランドオープンした。

14-4 写真(オフィス、意見交換背景等)



14-5 説明内容

- 株式会社第一興商では、カラオケ店「BIG ECHO」にてテレワークを2017年から少ない店舗で始めた。カラオケ時間が夜からのお客様が多いということで、不稼働時間を有効活用させたいとの理由でテレワーク事業を始めた。これは第一興商の本部内にて出された案であり、それをもとに営業推進課が事業を始めた。
- 基本的に駅前にあるなど、立地の強み関係もある中毎月1万人以上のテレワーク利用者がいる。夜中にも使われることが多い。
- テレワーク事業は、主に仕事の場として提供しており、企業によっては出張費節約のために、ビッグエコーの大きな画面を通じて会議をすることもある。当事業において、当店で貸出を行っている備品は、店舗によって多少異なる。
- テレワークプランでは、30分、1時間、そして2時間の3パターンがあり、それらの後に使える延長パックもある。テレワークプランでは、2時間利用するお客様が多い、そしてその後延長する方が多い。
- テレワークが専用料金で提供されている一方で、Zoomやプレゼン練習、楽器練習などの利用はカラオケプランと同様の金額である。

- 会議等はテレワークで行ってもらい、楽器練習はカラオケプランをお願いしている。「機械のチェック」を希望して利用するお客さんがたまにいるが、音の大きさがどのくらいか不明確なため、テレワーク利用にすべきか、カラオケ利用とすべきかの判断基準が難しいとのことだ。
- 1つ懸念点として、テレワーク利用をしているときに隣の部屋でカラオケを利用している客がいると、音が聞こえてくることがあるという。五反田店では、テレワークのフロアとカラオケのフロアをそれぞれ分けるなどして対策を行なっているように、まだまだ課題が残る中で様々な試行錯誤が行われている。

14-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1.テレワーク利用は実際にどこの店舗で多いのか

A1.テレワーク利用の多い店舗は、新橋店、品川店や、西新宿店などである。夜中にも使われる事が多い。

Q2.インターネットなどのセキュリティについてどうしているのか

A2.基本暗号化されている Wi-Fi モデルを使用している。パスワードがしっかり設定されているが、コードはどの店舗も同じである。電波も強めで、部屋で Zoom などをしても基本落ちない。

Q3.テレワークでの利用でも部屋からサービス等の注文ができるのか

A3.カラオケの時と同じように店内のサービス内での注文等は可能である。喫茶店感覚でつかってもいいが、外部の飲食の持ち込みは NG である

14-7 まとめ

- 「カラオケ店」にてテレワークをするにおいて、一部の店舗ではカラオケの階とテレワークの階を分けている点について騒音対策などにも少なからず配慮されていることがわかった。キャンペーンなども積極的に行い、本業のカラオケ以外にテレワーク利用も促進している。テレワーク利用の多い店舗は、新橋店、新宿店、品川店や、西新宿店などであり、基本的に多くの利用者がいる大きな駅付近の店舗での利用が多いと感じた。
- 普段の公共施設などについているフリーWi-Fiは、誰でも気軽に使えるように基本はパスワードロックなどの機能を使用していないケースが多く見られる中で、ビッグエコーでは基本暗号化されているところが印象に残った。テレワーク事業を行うことにおいて、利用者の情報保護が大前提大切だが、インターネット環境について定期的にアップデートやメンテナンスなどWi-Fiのセキュリティ対策がしっかりと行われている。最低限のロックなどの設定は行われていたので、いわゆるフリーWi-Fiよりは外部からの悪質なアクセスが起きる可能性が低いと感じた。
- 今後の社会情勢次第ではテレワーク利用でのカラオケ店の使用頻度が変わってくると思うが、とても利用しやすそうで良い印象が残った。
- テレワーク利用において、今でもリピーターの方が多く点に関してまだまだ利用者の見込みがありそうだったと思うが、最近コロナ禍が徐々におさまってきている中で、この事業を今後どのように活用していくかが課題となっていく中でどう対策するのが気になった。

15. 三鷹市役所訪問

15-1 調査訪問先別報告:

日時	令和 5 年 7 月 28 日
訪問先	三鷹市役所 〒181-0014 東京都三鷹市野崎 1 丁目 1-1
対応者	①丸山 真明 (三鷹市企画部企画経営課長 広報メディア課広報メディア政策担当課長) ②佐藤 眞菜(三鷹市企画部企画経営課)
URL	https://www.city.mitaka.lg.jp/
分類	三鷹市役所訪問

15-2 調査団員(敬称略):

責任者/ 教授	岡村 久和	亜細亜大学 都市創造学部 学部長
学生	濱田 大雅 佐藤 駿 三橋 加奈子 吉村 瞳子 三成 海太	亜細亜大学 都市創造学部 3 年 岡村ゼミ所属 亜細亜大学 都市創造学部 2 年 岡村ゼミ所属

15-3 組織・概要(設立・機能)

- 三鷹市は、都心から西へ約 18 キロメートル、東京都のほぼ中央に位置し、東は杉並区、世田谷区の 2 区に、西は小金井市、南は調布市、北は武蔵野市にそれぞれ接している。

(引用:三鷹市役所ホームページ 三鷹市の位置と地勢)

(https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/002/002062.html)

- 三鷹の人口は、大正 12 年の関東大震災による区内からの移住者によって増加し始めるまで 5,000 人～6,000 人という規模で、純農村地帯の時代が長く続いていた。
- 昭和 5 年の三鷹駅開設、昭和 10 年以降の軍需工場の進出などによって急増し、昭和 15 年の町制施行時に約 21,000 人、戦後の昭和 25 年の市制施行時には約 55,000 人となり、東京周辺のベッドタウンとして発展していく。
- 昭和 30 年代には、牟礼団地、新川団地、三鷹台団地などの大規模な公団住宅が建設され、都営住宅や民間アパートなどが急増して、10 年間でほぼ倍増している(昭和 30 年 67,308 人から、昭和 40 年 125,200 人へ・住民基本台帳)。
- 昭和 52 年ごろから 16 万人規模となり、近年では 19 万人を超える規模となっている
(引用:三鷹市役所ホームページ 三鷹市の人口・市章・市民憲章)
(https://www.city.mitaka.lg.jp/c_service/002/002063.html)

15-4 写真(オフィス、意見交換背景等)



15-5 説明内容

7月28日の三鷹市役所訪問の目的は二つあった。一つは7月20日、21日に実施されたフィールドワークの報告、二つ目は三鷹市役所内のテレワークの取り組みについての聞き取りであった。

15-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1.北秋田市ではワーケーションが推進されているが、三鷹市にワーケーションの需要はあるか。

A1.ワーケーションは都心の人々が田舎や観光地を訪れて行うものであり、都会である三鷹でワーケーションを行う需要はないと考える。ただしワーケーションとして地方に行きたいという需要はあると考える。

Q2.北秋田市では人口減少を止めるために、移住者促進の施策の一つとして保育園留学という制度が令和5年8月から行われるが、三鷹市には人口についての問題は何かあるか。

A2.三鷹市では北秋田市とは逆で、人口が多すぎるという問題がある。今は増設で解消されているが、以前は待機児童問題があり、保育園も小学校もキャパオーバー気味なのでむしろ移住してこないでほしい。また、人口が増えると市の財源は増えるが、課題解決が困難になる。

Q3.三鷹市役所で電子化されているものはあるか。

A3.決裁処理の際、昔はあれば紙を回しながら上司が決裁を行っていたが、現在は文書管理システムの電子決裁サービスを利用している。しかし、議場にパソコンやその他の電子製品は持ち込めないで、管理者はいまだに紙をファイリングして管理することが多い。パソコンが持ち込めれば書類管理が楽になるかもしれないが、電子ファイル管理だと容量を増やす必要がありコストが増える可能性がある。

Q4.三鷹市役所の電子化の取り組みについて何か課題はあるか。

A4.情報をホームページに記載しているが、市民がホームページをこまめに見ることは少ない。送られてくる広報紙も読まずに捨てる人が多い中、必要な情報をどう伝達していくかが課題の一つである。動画配信やQRコードなど、若者に親しみのあるコンテンツを考えたい。また市民の利便性向上のためにも、個人データ取得できるアプリを一本化したいと考えている。

また三鷹市では、市独自の住民情報管理システムを導入している。しかし国の法律が変わるとシステムも全て変える必要があるため、法律を変えるごとに国がシステムを作り、各自治体に提供してくれれば情報管理はかなりスムーズになる。また三鷹市は現在多摩市と日野市と共同でシステムを運用している。

Q5.北秋田市役所では電子化・テレワーク以外の問題で、カスタハラが大きく取り上げられたが、三鷹市役所には電子化・テレワーク以外の問題は何かあるか。

A5.北秋田市と一緒に、三鷹でもカスタマーハラスメントが横行している。「俺の税金で食ってんだから」というような発言をする利用者もいる。以前と比べて市役所の利用者の市民性が低くなっている傾向にある。例えば、何に使うかも分からない情報請求を毎日してくる人の対応に窓口の職員が疲弊しきっている。「理由が明確でない依頼は断る」などルール化して職員の負担軽減に努めている。また以前は市民の方から「ありがとう。」や「お疲れ様。」と温かい言葉をかけられることが多かったが、今は温かい言葉より

も心無い言葉が多く、それもあってか職員の勤続年数が短くなってきている。ちょうど今(令和5年7月28日時点)、職員への状況把握アンケートを実施しようとしているところである。

Q6.コロナ禍にテレワークは行われたか。

A6.行われた。しかしコロナ禍になってテレワークを導入したものの機器の支給はなく、また電気代・通信代といった費用は個人負担となっていた。窓口業務のような部署はテレワークできないため、業務に対する不公平感や労務管理の難しさが課題として挙げられた。今となってはテレワークには消極的だが、オンライン会議は継続して活用しているところもある。また、体の不自由な方や遠方の方への支援拡充、時間の短縮など効率化を図るため、オンライン講座なども実施している。

また、申請をすればパソコンを家に持ち帰る事は可能だったが、市役所としてはテレワークを全面的に積極的に導入はしていない。

Q7.電子化に伴い今後進めていくことはあるか。

A7.現在部署を絞ってフリーアドレスを推進している。また電子化を広げていくためには、ペーパーレス化を徹底する必要がある。決算書を文書管理システムにするなど一部では進んでいるが、パソコンを持ち込めない会議室では紙媒体の資料、それをまとめたバインダー(訪問した会議室の後方に置かれていた)を持ち込む必要がある。

Q8.テレワークをして何か不便に思ったことはあるか。

A8.コロナ禍におけるオンラインでの顔合わせの課題としては、やはり感情が読み取りにくいことが挙げられる。生で見る顔つきや表情の役割は大きく、上司が背後から部下の進捗を見るなど、その場でしかできないこともある。

テレワークだと、与えた仕事がどの程度部下に負担をかけているかが分からず、上司が部下のメンタルケアをする必要がある。また、ボールペン10本仕入れるなど、経費として認めてもらう説明がかなり手間取るようで、この様なことはオンラインに向かないと市役所内で話が出た。

また三鷹市に限らず、市役所は部署が変わることで業務内容が全く違うものになる。せっかく覚えたものも無駄になり、一から覚え直すとなるとテレワークより対面でしっかり教わりたいという人も多い。

以下、後日メールでの追加質問と回答

Q9.テレワークを担当されている部署はあるか。

A9.総務部職員課で担当している。なお、テレワーク端末の管理等は企画部情報推進課が所管している。

Q10.テレワークでは実際の勤務状態がわからないと言う課題への対策は考えているか。

A10.三鷹市ではコロナ禍において、出勤抑制を図るため自宅でのテレワークを導入したが、現在は、出張時以外のテレワークは行っていない。性善説に基づき規定の勤務時間に業務を行うことを前提としつつ、始業時と終業時に電話やメール等で上司に報告するなどの対応は一つの対策だと考えている。

15-7 まとめ

市民への取り組み

- 三鷹市では電子化がかなり推進されていることが分かった。
- 昨年 12 月には市の地域通貨が導入され、アナログのものとデジタルのものを用意した結果、デジタルダウンロードの数が圧倒的にアナログのスタンプカードよりも多かった。ただ市としては「誰一人取り残してはいけない」という重要課題がある。
- 三鷹市にはスマホを持っていても使いこなせない高齢者、また高齢者でなくてもパソコン操作ができない人が一定数存在する。そのためデジタルサポート窓口対応を設けて市民に電子機器の使い方を教えている。
- 今後は団塊の世代、電子製品を使える人が高齢者となるため、三鷹市は電子システムの導入が必須だと考えている。
- 場所的理由でこの電子化に取り残される人が出るのではないかという課題もある。
- 対策として、大沢などの買い物困難地域では、AI デマンド交通という小型車送迎サービスが予約制で実証実験が実施されている。予約方法はスマホアプリと電話の 2 通りであり、移動販売車もある。市民からの評判は良いそうだ。
- また井の頭地区では、道路の幅が狭いため 4~5 人乗りの電気バスを市民の移動手段の足として導入している。

市役所内での取り組み

- 三鷹市役所では ChatGPT は課題の洗い出し等で使われており、100%正確ではないため人間の目でチェックする必要があるが、良い印象を持っているようだった。
- 情報の取扱いについては用途に応じたパソコンの使い分け(個人情報用と事務作業用)で作業に手間を取られており、かなりの負担になっているため改善したいと考えているようであった。
- 今後の事務作業を楽にするためにもデジタル技術の発展に期待している側面も大きかった。
- 加えて三鷹市では市民が市役所に行かなくても済む方法を現在模索している。書かない窓口、待たない窓口、そして電子申請の徹底を目標に、窓口の一本化を進めている。

16. HT 訪問

16-1 調査訪問先別報告:HT 吉祥寺 シェアオフィス

日時 2023年8月2日 13:00～15:00

訪問先 野村不動産 HT 吉祥寺 シェアオフィス
東京都武蔵野市吉祥寺本町 1-15-9 岩崎吉祥寺ビル 6階

対応者 川本 渚
野村不動産 ビル一部事業企画課 株式会社

URL <https://www.hlt-web.com/offices/16.html>

分類 テレワークプロジェクト HT 訪問

16-2 調査団員(敬称略):

責任者/	岡村 久和	亜細亜大学
教授		都市創造学部 学部長
	大沢 彰	一般社団法人日本テレワーク協会 主席研究員
学生	濱田 大雅	亜細亜大学
	佐藤 駿	都市創造学部 3年 岡村ゼミ所属
	三橋 加奈子	
	吉村 瞳子	
	大塚 亮太郎	
	増田 圭祐	
	中川 連	

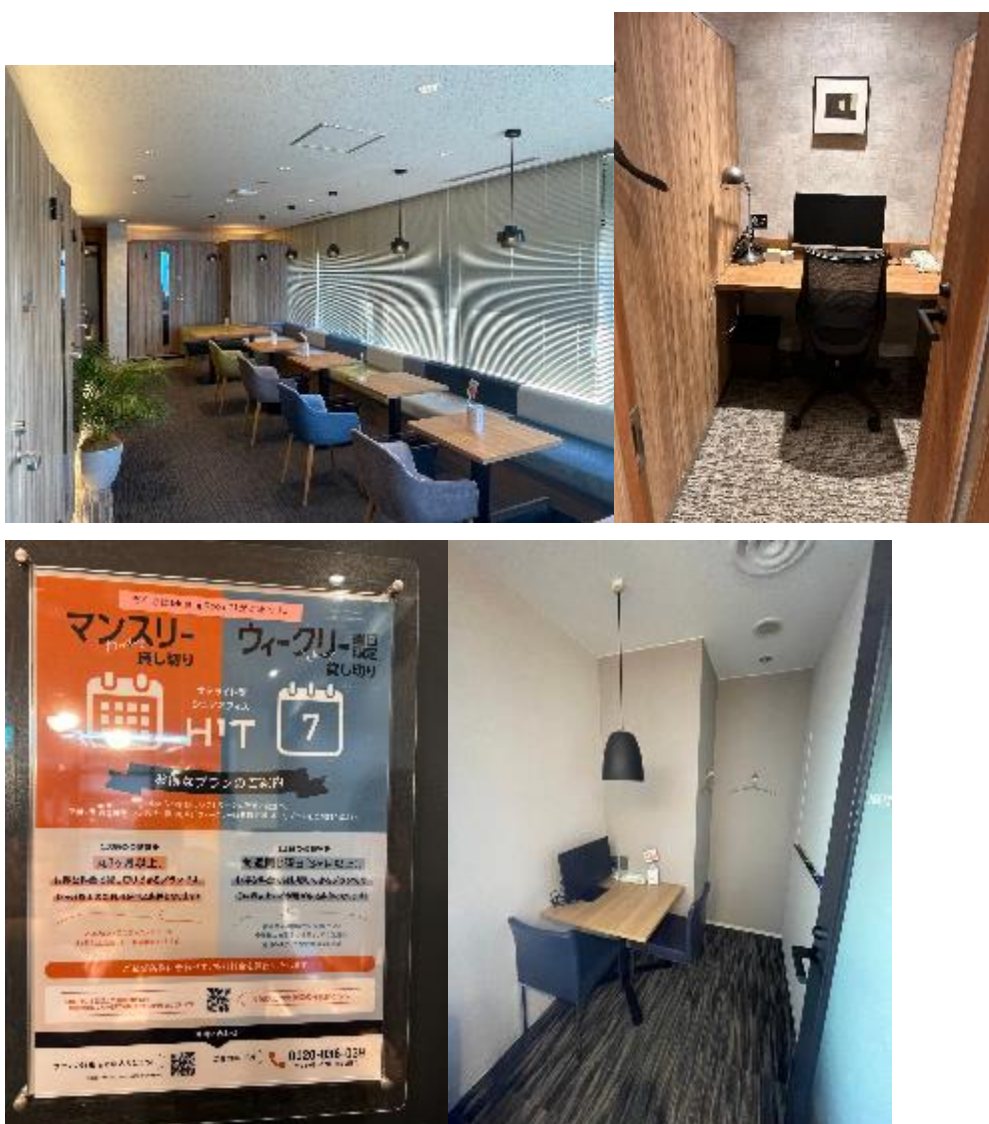
16-3 組織・概要(設立・機能)

設立:2019年10月

野村不動産株式会社が働き方の多様化と効率化に応えるサテライト型シェアオフィスとして設立。2008年よりシリーズ展開した中規模オフィスPMO(プレミアム・ミッドサイズ・オフィス)、本年11月より小規模サービス付き賃貸オフィス事業であるH'O(エイチワンオー)のシリーズ展開とは別に、より一層多様なオフィスワーカーに対して、「働く人を、幸せに生きる人に」したいという当社がオフィス事業を通して培ってきた「ヒューマンファースト」の価値観に基づいた各種サービスを提供している。

(一部H'Tホームページから抜粋) <https://www.hlt-web.com/>

16-4 写真(オフィス、意見交換背景等)



16-5 説明内容

H'T の組織及び取り組みについて

- 2019年にコワーキング施設として事業を開始し、コロナ禍では売り上げが伸びず苦戦していたが、その後は2021年だけで100店舗増やし今では258店舗までに拡大し、需要が高まった。野村不動産が所有するビルにこだわらず、駅近にこだわって事業展開を進めている。またH'Tから、新たに登場したのが「H'T by W」である。「W」は「Woman」の頭文字が取られており、女性向けのH'Tとして展開されている。

H'T のシステムに関して

- このH'Tのシステムとしては入退室に関してオートロックシステムのAkerunを使用しており、予約時間5分前に入室ができる。またアプリでICカード類を登録すると携帯など充電がない時でもタッチすることで対策がしっかりとされている。
- 予約方法は15分単位での予約がWebから行うことができる。無料貸出の備品には文房具類、ノートPC用のプライバシーフィルターやUSB扇風機が置いてある。お茶やコーヒー類もフリードリンク制でウォーターサーバーは常に予備が置いてあるため無くなった際は利用客に新しいものにとりかえてもらう仕組みをとっている。
- いつでも延長、短縮が可能で個人での利用は基本することはできない。しかし、現在は駅や空港にH'Tboxを設置しており、個人契約でも利用できる。平日勤務外での土曜、日曜はまた個人支払いすることで利用することができるmy書斎プランがある。従量課金制を導入しているが、会社によっては上限利用金額の設定や利用店舗の限定なども可能なので、融通が利き会社として管理がとても簡単である。
- 同業他社と比べ、最近事業を始めたH'Tの強みとして他社の良い点を参考に、「一律で見やすい業界最安の価格」、「社内報や面接利用にも使われるほどの内装」がある。

16-6 Q&A(質疑応答・情報交換・意見交換等)

Q1.無人運営においてデメリットなどはあるか？

A1.まだ欠点があり他人が利用者のアカウントでログインする事でありすましも可能である。

また清掃員などが昼間に入るが、基本的に無人運営なので、その場での問題解決が難しいことや部屋間違いや時間経過などによる利用者間のトラブルが起こったこともある。

Q2.これからの改善点や課題などはあるか？

A2.施設内のボックスの数、会議室の数等は店舗によって異なり、空調や配電、ライトに関しても各店舗でバラバラの業者が担当していたことから空調に関するお問い合わせに対して一括した対応を取れていないのが現状であるため、そのことから全て業者を揃えるということも考えている。また、地域によっては、窓を透明にしなければいけないと消防法の制約による難しさもある。

Q3.様々な問題点やお問い合わせはどのように集めているのか？

A3.入口手前にご利用のお客様が自由に書ける意見用紙を置いてあり、施設に対する不満や改善点を書いてもらっている。その内容に関して一つ一つ返信を行い常に問題解決に励んでいる。

Q4.複合機のセキュリティについて

A4.富士ゼロックスのクラウドオンデマンドシステムを採用している。クラウドへアップロードする際に、1ファイルに1つのパスワードがランダムに発行される他、ご利用者様は任意でパスワードを設定することが可能である。プリントするごとにファイルが削除される他、6時間経過したファイルは自動的に消去される。

Q5.イベント等での貸し出しは可能か？

A5.店舗によってはイベント利用が可能。利用料が異なるので各店舗にてご確認ください。貸切利用の場合、ケータリングも可能。

16-7 まとめ

- H'Tはコロナの影響もあり2019年から2021年の間でテレワークの需要が急激に高まっていたこともあり、この時期に地方にも拡大し157店舗も増やした。
- 一般利用はできず法人様利用に限定していたが今では駅や空港などでよく見かけるテレワークBOXというものを導入し、個人契約でも利用できるようにしている。
- 全ての店舗でAkerunを導入し、社員がどの拠点でも働ける環境を構築していた。外出先でも最寄りの拠点で業務できるため、所属拠点に戻る手間がなくなり、使いたい時に予約ができ個人利用から会議まで柔軟な働き方が実現されていると感じた。
- 無人営業ということもあり、その場での問題解決が難しいことや、なりすましが可能な点などが多少の欠点ではあるが、それを解消すべく対策もなされていた。
- 簡易個室のミーティング部屋には、多少の雑音を掻き消すアイテムが搭載されており、周りを気にしないで会議をすることができるようになってはいたものの、多少の声はやはり漏れてしまっていた。
- コロナ禍で拡大した店舗ではあったが、コロナが落ち着きテレワークをしない地域などが明確になり、閉店を余儀なくされている店舗も数多くあった。
- 現在では女性目線のH'Tが新事業として始まっており、女性も使いやすい環境づくりを目指している。

17.全体まとめ、考察(提案)

17-1 テレワークの目的

新型コロナウイルスが蔓延したころ、多くの企業がテレワークを導入した。理由は物理的な人との接触を避け、新型コロナウイルスの蔓延防止に努めるためであった。その結果テレワークにより仕事が効率化されより良い成果を出す者がいる一方で、業務を怠る者や孤独から精神疾患を患う者が出てくるという問題が表面化した。

現在、テレワークは減少しつつある。それは企業がテレワークによる恩恵よりも、テレワークによってもたらされる害のほうが大きいと考えているためだろう。企業とは団体であり、その団体として強くなければならない。そうでないと市場の闘争に負けてしまうからである。では団体として強いとはいったい何なのか。いくつかの要素で成り立つが、一番団体の強さを決めるうえで重要なのは「結束力」であろう。企業は社員にある程度の帰属意識を持たせる必要がある。特に日本企業は個で成果を出すのではなく、グループごとに成果を出す傾向があるのでなおさら帰属意識を持たせる必要がある。テレワークはその帰属意識を希薄化させる要素が多い。それゆえに企業はテレワークを避け始めている。また、業務を怠る社員や、精神疾患を患う社員が増えているのもまたテレワークが避けられる理由と考えられる。

しかしなぜこのような事態になったのか。テレワークが始まった当初、人々は通勤時間から解放され、自分の時間をより持てるようになったはずだ。それは現在よく唱えられるプライベートの充実という項目を十分に満たしているように思える。これはテレワークの良い面である。特に子育て世代には非常に良い影響を与えたのではないかと考えられる。また、毎日テレワークをせずとも、週に何日かテレワークを設けることでリフレッシュにつながり、よりパフォーマンスが上がるとも考えられる。ただ、それと同時に自制できない者が出てきたことも事実である。業務を怠る者、逆に頑張りすぎる者が出現してしまった。

ではどうすればこの課題は解決できるのか。一番簡単な手段は監視である。しかしこの監視をすれば個人の自由は大幅に制限されるであろう。不必要なプレッシャーを与える要因にもなりかねる。これでは企業にも個人にも良い影響は生まれづらい。こういった動きの背景にはコロナ禍に用いられた、また現在も使われているテレワークが無秩序であるといった問題が存在する。コロナ禍における急なテレワーク化は、いわば突貫工事の様な物であった。それを改良せず使うか、あるいは使う事自体を辞めているというのが現在の状況であると言えるだろう。

今回の調査の結果、テレワークの目的は「個人のパフォーマンスを最大化し、企業の発展につなげる」ことであると考えた。そしてこの目的を達成するためにはテレワークのルール作り、分類決めが必要である。テレワークが向いている人、そうでない人、テレワークを用いる日数など決めることは数多くある。そして企業の性格によっても取り入れるべきテレワークの形態は変わる。新しい秩序を作るには多くの時間や労力を必要とするが、少子高齢化が進む今、私たちはこの問題に向き合っていかなければならないと考える。

17-2 人との繋がり

テレワークが普及する中で、仕事環境の変化に伴いさまざまな人間関係の側面も影響を受けている。テレワークをする際、上司からの一方的な指示だけになってしまいコミュニケーションが希薄になってしまう。対面でのオフィス環境では、仕事の進捗状況や詳細な部分でのコミュニケーションが容易に行えるが、テレワークではこのようなコミュニケーションは生まれない。上司からの一方的な指示が頻繁になってしまう理由としては、テレワークが物理的な距離を生むことが考えられる。質問をしたくても相手の状況が分からないと質問しにくくなってしまう。相手が今どのような仕事をしていて、手が空いているのか質問しても良い状況なのか判断することが難しい。また対面でのオフィス環境では、日常的なやり取りや何気ない会話、雑談が自然に行われ、良好な人間関係を形成することに繋がっていた。しかし、テレワークではこれらのコミュニケーションが生まれにくくなり、職場の雰囲気やメンバー同士のつながりが希薄になりがちである。

テレワークにおいてビデオ会議は一般的なコミュニケーション手段であり、遠く離れた場所にいる人とでもコミュニケーションが取れる。ビデオ会議では発言するタイミングや相手の表情を読み取る事が難しく、円滑なコミュニケーションが行えないことが課題の一つになっている。オンラインでも円滑なコミュニケーションを取るために、相手の発言に対して相槌やリアクションを大きく取ること、相手にも表情が伝わるようにすることが重要である。また、自分から積極的に発言することで周りが意見を出しやすい雰囲気を作り、周りに質問を投げかけることでさらに意見が出しやすくなる。私たち学生は1年以上のオンライン授業を経験した。オンライン授業を通して、遠隔での人とのコミュニケーションの取りにくさを大きく実感した。特に入学直後はコミュニケーションが取れず、全く友達が作れなかった生徒が非常に多くいた。オンラインであってもコミュニケーションを取る事が人間関係を構築するうえで非常に重要である。

テレワークは物理的に距離が離れていても仕事ができるという利点がある一方で、人とのコミュニケーションを取る機会を減少させ、人間関係が希薄になる原因でもある。個人や組織が円滑なコミュニケーションを築くためには、オンラインツールを適切に活用し、メンバー同士がよりコミュニケーションを取りやすい雰囲気づくりが重要である。そして挨拶や何気ない雑談を取り入れ、仕事以外の部分でもコミュニケーションを取るようにすることが必要である。オンラインであってもコミュニケーションは個人や組織にとって欠かせない要素であり、円滑なコミュニケーションを取る事が人間関係の構築、より良いチームを形成する鍵となる。

17-3 健康面

テレワークになると会社や学校に通勤、通学、オフィス内での移動が無くなるので運動不足に陥りやすく、肥満になりやすい。テレワークとなるとWeb会議などを含め基本デスクワークになり、移動が少ないので長時間座っていると姿勢の悪化に繋がる。そのため、自分に合った椅子やデスク、スタンディングデスクなどを導入することが勧められる。また、職場や学校の方に会う機会が減るので孤独感が増加する。コロナ禍によってここ3年ネット越しの会議や授業が日常の風景になるほど増えた。東北大学の実験では画面上で人と話すときに脳波がどうなるのかという実験がある。人間は直接人と会って話すことで特定の

脳波が発生する。しかし画面上での人との会話だとその脳波は発生しない。オンライン上では最低限の情報伝達が出来ても、共感を生み、協調関係を築くことに結びつかないという結果であった。脳はボーッとしている状態と変わらなかったのだ。つまり、人と話しているつもりでも、脳はその認識をしていないので知らぬ間に孤独感になり、人と話すのが怖いなどコミュニケーション能力が低下する恐れがある。また、個人への負担や責任が増えやすい。テレワークになると発言するひとの固定化や集団という意識が低くなり、個人の負担が増える。「サボる人」「効率がよくなる人」「頑張りすぎる人」など個人のパフォーマンスはその人に依存する。その結果負担が増え、鬱になったり精神的に病んでしまう。テレワークでパフォーマンスが低下する人には対策をし、責任が個人に集中するのを防止する必要がある。ここを通じてコンピュータによる権限規約や監視の可能性によってはプレッシャーを感じることもなる。

特に在宅勤務では自分の中で最も効果的な作業時間を選択出来る柔軟性を提供する。移動時間が減少することにより家族や友人との時間が増やせる。家でも作業ができることによって仕事と生活の調和が図れる。しかし、自宅での仕事が増えると業務とプライベートとの境界が曖昧になり、働きすぎや休息不足が生じる可能性がある。

我々の約1年半の大学のオンライン授業と今回のプロジェクトを通してメリット・デメリットが浮き彫りになった。

テレワークによる長いビデオ会議では長い緊張感と長い間座っていることで起こる血流の悪化により集中力低下や姿勢悪化に繋がる。ここでの解決策は定期的にビデオをオフにしてストレッチや簡単な運動をする時間を設けるという規定を作る。これは血液の流れを促進や筋肉の硬直を防ぐ効果があり、ビデオをオフにすることでリフレッシュでき集中力低下を防げる。また、デスク周りにエクササイズ用具を置くこともあげられる。

上記にもあるように画面上でのコミュニケーションはただの情報伝達でありコミュニケーションでは無い。つまり、対人でコミュニケーションを取れるように通勤や通学で浮いた時間で友人と直接会って会話することがメンタルヘルスの維持として重要である。仕事の負担が1人に嵩張らないようにリーダーがメンバーに気を配り、指名をして役割分担する。北秋田市役所での会議の題でも出たようにメンタルヘルスの課題の対策として受付をアバターで対応する案があげられた。ただし、要件によっては個人情報の扱いにより最終的には人間が対応することになることも多い。また、北秋田のような超高齢社会ではデジタルへの対応が遅れており、デジタル化が厳しい地域もあった。

他にはテレワークによる運動不足の解決策として移動がない分、時間を有効活用しストレッチや近所のジムに入会することがあげられる。最近ではチョコザップを筆頭とした安価なフィットネスジムが普及しているので短い時間でも運動することが大切である。

自宅での作業が増えるテレワーク。どこでも作業ができることが仇となりいつでも仕事と繋がった状態になりかねない。プライベートとの境が分かりにくくリラックスする時間が減る。それぞれのペースでプライベートの時間を大切に、浮いた時間で友人や家族と会話をし、仕事から開放される時間を確実に確保すべきだ。

17-4 時間

テレワークにおける「時間」の観点を行政、企業、学生、市民など様々な立場で調査した結果、メリットとデメリットが同時に存在することを実感した。「時間」の観点から見るテレワークの最大のメリットは、なんといっても移動時間がない事だろう。

今まで頻繁に東京出張があった津谷市長や北秋田市役所職員の方々は、市長業務の半分をテレワークで代用できた驚きと機能性に感心していた。行政施設にアクセスしづらい市民とテレワーク行えれば、市民と職員の双方の時間が削減できる。また Volter40 を扱う数少ない Forest Energy 社では、国内のみならず、海外の顧客からも緊急の問い合わせがくる。Whatsapp、FaceTime、LINE 通話を活用し、現地に行く事なく適宜対応している。行政や企業にとっては、移動にかかる費用とそこに人員を充てる必要がなくなる。BIG ECHO 田中さんや学生からは、入社や通学時間が無くなった事で、自分の好きなタイミングで休憩を取る事がより簡単になり、精神的疲労が少ない為、学習や仕事に対する意識や集中力が上がったと意見が聞かれた。

テレワークは、従業員へ家族や自分自身に費やす時間の創出に大きく貢献している。出社が以前より必要なくなったことで、子供の送迎や家事だけでなく、保育園留学の人気も高まっている。人口減少に悩む地方と人口集中に悩む都市部との格差を解消する、一助となる可能性が高いだろう。また BIG ECHO は、カラオケ施設の特徴を活かし、推し活、ZOOM、楽器の練習など多種多様なサービスを提供している。

テレワークが広まったことで、会社の働き方や人々の時間の使い方が大きく変化しており、移動時間を、融通を聞かせて他のものに有効活用する認識が広がっていると言えるだろう。

この時間の観点には課題も存在する。スマホで仕事の電話に対応する機会が増えた結果、常に仕事をしている状態になってしまう。我々学生は、1年以上のオンライン授業を経験した。一日中パソコンと向き合い、画面を見続ける日が何日も続き、椅子に座り続けることで肩や腰に痛みを抱えた生徒も多かった。これが常態化してしまうと、心身的ストレスや視力の悪化など健康状態に深刻な影響を与えかねない。仕事とプライベートの明確な分離というテレワーク普及後に生まれた新たな課題への解決が、国や企業側に求められる。例えば、勤務時間やテレワーク時間のルール化だ。今回の調査を通して、テレワークのアクセス制限や、一定の出勤日を満たした場合にテレワーク日を会社が提供するといった案が挙げられた。地方行政ではシステムを導入して一部の業務負担を軽減したい一方で、財政的課題がある事が分かった。国や企業側は、業務負担の軽減のサポートを通して、仕事時間と自分時間、このメリハリのある体制を構築するべきだ。

17-5 セキュリティ

テレワークを行う際、Zoom や Microsoft Teams、そして Skype などのテレビ通話ができるようなアプリケーションを基本的に使用する。これらは、常にインターネット上に繋いだ状態で行う為、使用端末やネットワーク回線に繋げる機械(ルーター)の「セキュリティ」面がとても大切となる。実際に私たち学生が大学に入ってから最初の 1 年半ほどオンライン授業(テレワーク)を体験してみて、様々な良い面と悪い面を発見できた。

まず初めに、テレワークを行う際にインターネットが必要となる。例えばカフェなど外出時に接続しようするとフリーWi-Fi などに繋げることが必須となる。そのフリーWi-Fi は誰もが簡単に接続できるようにしているのがほとんどのため、パスワードなどを使用するロックがされていない。これでは、外部からの不正アクセスなどのリスクが生じてしまう。Zoom などを使用する際は、その組織内で行うため自分たち利用者、システムの提供者の両方がセキュリティ対策をする必要があると感じた。

他に挙げられる問題点としては、インターネット接続とは別で画面の覗き見という例がある。これらを防ぐ為には、携帯やパソコン等で覗き見防止フィルターなどを貼れば多少の解決に繋がる。画面を明るくしないとカメラ越しでの相手の顔が見えないので、こうした策は必要だ。

最後は、回線について述べる。ネットワークの接続環境が悪いと、Zoom 内で強制退出になってしまう場合があったり、大事な場面での相手の声が聞こえなくなってしまう。そのため、テレワークをする際にはある程度以上のネットワーク環境が整った場所で行う必要がある。万が一そういった場面があると、自分にも相手にも不利益が生じてしまう。対策として、パソコンのスペックの向上や、それぞれが使用している端末を統一させて接続を楽にすることも可能だ。他にも 5G 回線化などの意見も挙げられた。課題の対策には費用などが発生するが、今後はネットワークの向上は義務化され、整備の整った環境でテレワークを行うべきである。オンライン授業では、授業を受けていてもネット環境の整備不足・知識不足等で遅延してしまったり最悪の場合休講になる場合もあった。これらを解決するには時間を費やすと思われるが、今後世の中にテレワークを推進するのであれば、政府が主体となり企業支援を進めるなど、早急な対応が求められる。誰もが問題なく、快適に利用できるような環境が実現してほしいと願っている。

2023年度 岡村久和ゼミナール3年メンバー表

下線あり:テレワークチーム(第一部) なし:セミナーチーム(第二部)

濱田 大雅



佐藤 駿



三橋 加奈子



吉村 瞳子



大塚 亮太郎



増田 圭祐



中川 連



小木曾 悠太



易 敏



易 秋玲



陳 一雯



荒井 彩花



北村 野々子

任 我飛



